

平成28年度公益財団法人国際エメックスセンター事業計画

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

I 事業方針

我が国及び海外における閉鎖性海域の環境保全に関する取組みの連携の強化を図り、積極的にこれに貢献するため、人的・知的ネットワークの有効活用を図るとともに、国内外の閉鎖性海域の環境保全に取り組む様々な市民、機関、研究者等の参加を得て、「多様な自然と人間が共生する持続可能な社会」を目指した事業を推進する。

II 事業計画

1 閉鎖性海域環境保全推進事業

ア 第11回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス11）の開催等

〔26,729千円〕

エメックス11については、Sea Coasts XXVIとのジョイント会議として開催予定であり、ロシアの現地事務局とセッション構成や会議運営等について、事前に協議調整を行う。また、日本からも多くの関係者が参加するよう広報に努める。

【エメックス11の概要案】

- 〔名称〕 EMECS 11- Sea Coasts XXVIジョイント会議
- 〔時期〕 平成28年（2016年）8月22日（月）～27日（土）
- 〔場所〕 サンクトペテルブルク（ロシア）
アジムットホテル・サンクトペテルブルク（メイン会場）
- 〔テーマ〕 変動する世界における沿岸域・コミュニティのリスク管理
- 〔現地事務局〕
ロシア国立水文気象大学（RSHU）
ロシア科学アカデミー P.P.シルシヨフ海洋学研究所（IO RAS）
A.P.カルピンスキーロシア地質研究所（VSEGEI）

① 「ICM and Satoumi」特別セッションの開催

エメックス11における特別セッションの一つとして「ICM and Satoumi」特別セッションを開催する。戦略研究プロジェクト（S-13）の研究結果発表の一環として、柳委員がチェアを務め、戦略研究プロジェクトに携わる研究者が発表を行う半日程度のセッションを開催する。

② 青少年環境教育交流（SSP）セッションへの学生の派遣

第6回エメックス会議（平成18年（2006年）バンコック）以来、継続実施されている「青少年環境教育交流セッション」への参加者として、日本から学生2名を派遣する。

〔選考手続〕平成27年（2015年）11月（書類選考）

平成28年（2016年）1月30日（土）（面接選考）

〔選考委員〕柳 哲雄九州大学名誉教授（科学・政策委員会副委員長）

川井浩史神戸大学教授（科学・政策委員会委員）

〔派遣予定〕2名（高校生）

③ 科学・政策委員会の開催

エメックス11の開催運営、エメックス12の開催検討を行うとともに、エメックス活動の推進について検討調整を図るため科学・政策委員会を開催する。

〔開催時期〕平成28年（2016年）8月22日（月）（予定）

〔開催場所〕アジムットホテル・サンクトペテルブルク（予定）

イ 第12回エメックス会議（エメックス12）の開催準備等

〔1,002千円〕

平成26年（2014年）8月の科学・政策委員会において、メナサウエイド委員からタイでのエメックス12の平成30年（2018年）開催について、テーマ、候補地についての具体的な提案が行われている。引き続き科学・政策委員会を中心に開催に向けた具体的な調整を図っていく。

なお、エメックス13以降の開催については、これまでに開催された地域のフォローアップ及び開催実績のない新たな開催地（発展途上国や南半球での開催など）の検討の視点から、科学・政策委員会で調整を図りながら、開催適地を選定する。

ウ エメックス国際セミナーの開催

〔2,006千円〕

エメックス11の結果を踏まえ、会議成果を国内で広く普及するためエメックス国際セミナーを開催する。

〔開催時期〕平成29年（2017年）2月頃（予定）

〔開催場所〕神戸市内

エ エメックス活動の推進

〔1,056千円〕

エメックス会議の開催をはじめ、国際的な調査・研究事業の推進に向けて、海外研究者等との人的ネットワークを構築していくため、関連する国際会議等に科学・政策委員等を派遣し、エメックス活動のPRを行う。

オ 国内外機関との連携

〔1,326千円〕

① ECSA(河口域・沿岸科学学会)との連携

ECSA(Estuarine & Coastal Sciences Association)の国際会議「ECSA56」において、当センター科学・政策委員会委員によるセッションを開催し、エメックスの普及啓発、関係機関との連携を図る。

〔開催時期〕平成28年（2016年）9月4日（日）～7日（水）

〔開催場所〕ブレーメン（ドイツ）

〔出席者〕 エリック・ウォランスキー委員、柳哲雄委員他

② PEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）等との連携

平成20年（2008年）に非政府パートナーとして加入したPEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）やエメックス10を共催したMEDCOAST財団等との情報交換等を進め、海外機関との連携充実を図る。

カ 調査研究事業 [39,694千円（うちS-137°プロジェクト35,688千円）]

① 戦略研究プロジェクトS-13「持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発」の推進

環境省から戦略研究プロジェクト（環境研究総合推進費）を受託し、平成26年度（2014年度）から5年間にわたり、プロジェクトリーダーとなる柳哲雄九州大学名誉教授を特別研究員として迎え入れ、プロジェクトの全体管理を行うとともに、統合数値モデル構築などの研究に、関係大学・研究機関とともに取り組む。

平成28年度（2016年度）についても、当初の計画に沿って着実にプロジェクトを推進していくほか、これまでの研究成果を国内外で発表していく。

- 公開シンポジウムの開催（平成28年5月、富山）
- アドバイザーリーボード会合及びテーマリーダー会議（平成28年5月神戸、11月東京予定）
- 公開成果発表会（平成28年11月、東京予定）
- エメックス11での「ICM and Satoumi」特別セッションの開催（平成28年8月、ロシア・サンクトペテルブルク）
- ECSA56セッションで発表（平成28年9月、ドイツ・ブレーメン）
- モデル作成：志津川湾統合モデル

【戦略研究プロジェクト（S-13）の概要】

- 総括：プロジェクト全体の管理と沿岸海洋管理哲学の提示
テーマ5：沿岸海域管理のための統合数値モデル構築（平成27年度～）
- テーマ1：閉鎖性海域・瀬戸内海における栄養塩濃度管理法の開発
- テーマ2：閉鎖性内湾が連なる三陸沿岸海域における海域管理法の開発
- テーマ3：陸棚・島嶼を含む国際的閉鎖海域・日本海の海域管理法の開発
- テーマ4：沿岸海域の生態系サービスの経済評価・統合沿岸管理モデルの提示
*各テーマの下にはさらに1～4のサブテーマが設けられる。

予算規模 プロジェクト全体で年間1.5億円

研究期間 5年間（平成26～30年度）

② 尼崎港実証実験施設の活用

水質や底質、生物の生息環境の劣化等の進んだ湾奥部の環境の再生をめざして尼崎港に設置している人工干潟等の実証試験施設を共同研究の場として活用し、大阪府立大学、兵庫県環境研究センター等関係大学や研究機関と連携して閉鎖性海域の環境保全・創造方策に関する調査研究の推進を図る。

2 情報収集整備活用事業

ア 閉鎖性海域情報センター（仮称）の整備検討

〔ア、イで3,771千円〕

エメックスを世界の閉鎖性海域の情報を集約し、付加価値を高めて情報発信できるワンストップセンターとして整備するため、関連情報の収集整理を行うとともに、データベース整備、海域レポート発行等の準備を進める。

イ インターネットによる情報発信等

エメックス会議・国際セミナー等の開催案内や論文募集案内、会議開催結果や報告書等の公表、S13プロジェクトなど調査研究事業の成果発表、出版等に関する情報発信をはじめ、閉鎖性海域の環境保全と適正な利用に関連した各種情報の収集と発信（日本語・英語）をタイムリーに行う。

ウ エメックスニュース等による情報発信

〔2,033千円〕

当センターの活動状況、世界の閉鎖性海域の環境保全活動等を掲載した「エメックスニュース」を発行する（日本語・英語）。

また、会議開催案内、論文募集等タイムリーな情報発信が必要な内容について、メール配信システム（メルマガ）を利用した情報発信を行う。

3 人材育成・普及啓発事業

ア 海の環境学習人材育成事業

〔1,368千円〕

尼崎港内の筏や人工干潟等を活用した環境人材育成活動を推進するため、引き続き徳島大学をはじめ地域の環境団体やNGO、専門家とともに事業を推進していく。

イ 環境イベントへの出展等

〔850千円〕

エメックスセンター活動の普及啓発と閉鎖性海域の環境情報発信のため、エコフェスティバル等各種環境イベントに出展を行う。